

## 令和 2 年度事業報告

我が国の社会情勢は、人口減少・少子高齢化の進行のもとで、継続雇用制度の義務化やライフスタイルの多様化等その変化はめまぐるしいものがあります。

また、企業においては労働力人口が減少する中、サービス業等の人手不足分野や介護、育児等現役世代を支える分野において、高齢者が当該分野の担い手として活躍することが望まれています。

こうした中、令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的規模での拡大という未曾有の事態に見舞われ、雇用情勢をはじめ社会経済活動は大きな打撃を受け、シルバー人材センター事業にも大きな影響を受けることになりました。

一方で、平成 30 年 2 月に内閣府が策定した「高齢社会対策大綱」にもあり、年齢を判断基準とすることなく高齢者の高い就業継続意識がみられる現況を踏まえ、年齢にかかわらず希望に応じて働くことが出来るよう環境整備を図ることとなっており、企業の定年延長などによる就労環境が大きく変化しています。

令和 2 年度は、府中町シルバー人材センターの活動指針である「第四次中期計画」の初年度となりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大で年度の前半は計画を遂行するための環境や方法は大きく様変わりしました。

会員数は目標値に及びませんでした。前年度より 12 名の増加（会員数 422 人）となり、就業率は、公平な就業機会の提供に努め目標値より 0.9% の増加となりました。

女性会員の主な就業先である介護予防日常生活支援事業、くすのきプラザでの軽食喫茶「椿庵」等の独自事業も 4 月の緊急事態宣言、12 月末から 2 月下旬までの広島県の感染拡大防止集中対策期間に伴い事業を休止せざるを得ませんでした。また、令和元年度から事業拡大の兆しがあった認可外保育施設「シルバーママサービス」について、利用者と会員の感染症予防対策のため 4 月から 6 月は利用の自粛を依頼し慎重に事業を実施したことにより、独自事業全体では前年度比 67.6% となりました。

全体の契約金額については、感染症予防対策で公共施設の休館が行われ大変厳しい中、府中町及び関係機関の特段のご支援とご配慮をいただき、目標値の 95.5% を確保（契約額 165,380 千円）するとともに、府中町の新しい事業として「高齢者いきいき活動ポイント事業」が始まり、その受付業務の委託を受け事務系職種の就業を希望し入会した女性会員の貴重な就業の場となりました。

活動内容の詳細につきましては以下のとおりです。

### (1) 事業運営の健全化と組織体制の強化

公益社会法人として公共性を重視した事業運営が求められる中、令和2年度は理事会をはじめ、各種委員会や職域の活性化と透明性のある組織運営を目指し、会員、役・職員の三者が一体となった事業運営を行いました。

センター組織の決定機関である理事会及び各部会、各委員会の環境を整え、感染予防対策を講じて止まることなく活動し、事務局及び役員並びに会員との連携を行い情報の共有をし、事業運営の円滑な推進に努めました。

広島県総務課から公益法人運営組織及び事業活動の状況に関する立入検査が8月7日に実施され、会計処理や法人運営について懇切丁寧な指導をいただきました。また、12月3日には広島県労働局の補助金に係る経理事務指導を受け、引き続き透明性のある事業運営に努めるようご教示いただきました。

令和2年度に開催された研修会は、オンライン研修会が中心となりましたが、職員が努めて受講し知識・情報の習得を図りました。

### (2) 会員の増強

「第四次中期計画」は全国シルバー人材センター事業協会「会員100万人達成計画」に基づいて、令和2年度は会員443人を目標としておりましたが、令和3年3月末で422名となり目標には及びませんでした。組織を挙げて取り組んだ結果、会員は昨年度末より12名増となりました。

退会を希望する会員については、役・職員が丁寧に仕事の情報を提供し、今後の活動に繋がるよう引き続き会員の継続をお願いしました。

「府中つばき祭り」など各種イベントが中止となりましたが、町のつばきバスや役場庁舎内のデジタル掲示板への広告掲載を行いました。

女性会員の加入促進は全国的な課題でしたが、令和2年度中には女性会員が12名増となりました。

### (3) 普及啓発活動の強化と実践

広報紙「安芸府中シルバーだより39号」を発行、町内全戸配布。また、事業の運営の安定・拡大を図るために、シルバー事業への信頼と理解が得られるよう、あらゆる機会をとらえて広報「ふちゅう」等への掲載をお願いし、普及啓発活動を行いました。会員への情報提供として「事務局だより」令和2年度より誌面をカラー印刷で発行し、簡潔で正確な情報を提供しました。

令和2年度は感染症予防対策のため、「ボランティアの日（10月第3土曜日）」の町内一斉清掃等の取り組みをはじめ県連合会や町が主催する行事の中止が続き、普及啓発のための行事の開催や参加をすることができませんでした。

が、3月23日～28日に府中町歴史民俗資料館で介護予防事業「オレンジサロンの利用者作品展」を開催し、また、介護予防事業とセンター事業の啓発活動を行いました。

#### (4) 就業機会の開拓・確保

就業機会の拡大は、会員の確保とともにシルバー事業の根幹をなすものであり、顧客や継続発注者を大切にしながら、新たな就業機会の確保にも取り組みました。

また、入会説明会時に職員が入会希望者ひとりひとりに丁寧に就業相談を実施しました。会員がシルバー人材センター事業でできる仕事を「ロコミ」で宣伝し特に、剪定や草刈等をロコミで行いました。

#### (5) 高齢者活用・現役世代雇用サポート事業の推進

現役世代を支える分野で高齢者に就業する機会を推進し、地域での人手不足分野の職域の拡大を図りました。

行政、事業所、一般家庭からの就業の開拓を行い仕事の提供に努めた結果、派遣事業において公共、民間「第四次中期計画」の目標値を上回りました。

また、依頼された仕事を働き方のひとつとして職業紹介を行いました。

#### (6) 安全・適正就業の推進

機会があるごとに会員の安全意識の高揚と安全対策に努めました。事故「ゼロ」を目指しました。

また、安全就業基準に則した就業の徹底に努め、会員に公正・均等な就業機会を提供するとともに、就業の実態を把握し、就業状況が法令に抵触しないよう、発注者と仕事の内容を協議しながら適正就業の推進に努めました。

#### (7) 研修会・講習会の開催

接遇対応の研修会を予定しておりましたが、開催が困難な時期となり「接遇対応について」のテキストを職員が会員に説明を行いながら配布し、公共からの継続的な就業場所の確保のために「接遇対応のマナー」が大切な要件であることを伝えました。